

【樹木・草花の部屋】

カクレミノ（ウコギ科カクレミノ属 *Dendropanax trifidus*）

和名；カクレミノ（隠蓑） **別名**；カラミツデ、テングノウチワ、ミツデ、ミツナカシワ
セリ目 常緑亜高木

原産地； **花言葉**；ずるがしこい、耐え忍ぶ **花の色**；黄緑色



← 写真－1 カクレミノの樹形

撮影日：2011年12月1日

撮影場所：広陵町S邸にて

撮影者：Sさん

このカクレミノは、20年前に北向きの土止め擁壁の前に植えたものです。陰樹のカクレミノには適地なのか元気で育っています。海岸近くに多く、湿り気の多い照葉樹林内に自生する。庭木としてもよく植栽される。カクレミノは、日陰にも強く他の樹木が育ちにくい場所

にも植えられ、また、乾燥にも強く、軒下近くのあまり雨の当たらない場所でも育つ木です。したがって、一般的に小木として扱われることが多いですが、この木は意外と大きくなります。植えてから枝抜き剪定をして樹冠を小さく維持することが大切です。



写真－2 カクレミノの葉 ↑

撮影日：2012年4月24日

撮影場所：馬見丘陵公園にて

撮影者：Sさん



写真－3 カクレミノの紅葉 ↑

撮影日：2011年12月1日

撮影場所：広陵町S邸にて

撮影者：Sさん

【樹木・草花の部屋】

写真-3 カクレミノの実 ⇒

撮影日：2011年12月1日

撮影場所：広陵町S邸にて

撮影者：Sさん



花期は7～8月黄緑色の小さな花を多数つける。両性花だけがつく花序と、雄花と両性花が混在する花序がある。10～11月に紫黒色に熟します。面白い実の形や付き方です。

<ちょっと一言>

由来 隠れ蓑からといわれる。着ると実を隠すことのできる蓑にたとえた。“名前の通っているわりには、その名の由来を知る人は少ないです。想像上の宝物の一種に隠れ蓑というのがあり、これを身につけると姿が見えなくなるといわれる。打つと好きな物がなんでも出てくる打出の小槌などとともに、鬼や天狗の持ち物とされ、昔話によく出てくる不思議な代物です。これらの宝物を絵模様にしたのが、いわゆる「宝づくし」で、これに描かれた隠れ蓑に葉の形がよく似ているので、カクレミノといったものです。昔は、「宝づくし」の模様を振袖などに用いたから、誰しもその語源を実感できたが、そうした実体が失われた今では、その名の由来が、わかりにくくなってしまった。”（深津正著 植物和名の語源より）

若木や萌芽枝の葉は3～5裂ですが、成木のものは卵形で全縁となります。このようなものを二形葉といい、ヒイラギで顕著。葉の寿命はおよそ1年6カ月で、2年目の秋に鮮やかに黄変して落葉します。7～8月に、枝の先に散形花序を1個から数個つけ、淡黄緑色の花を咲かせます。花序の中軸のものは雌花、下方のものは雄花か両性花で、両者が混生します。葉も花も環境や時期で変わることが面白ですね。

剪定 大きくなった幹や枝を抜き、小さな枝に更新していくことが必要です。胴吹き、ヒコバエを活かして主幹の更新ができるように育てます。カクレミノは自然に放置しても、カクレミノ独特の自然樹形を形作るため殆ど剪定の必要はありません。新葉が出ると古葉が自然に落ちて葉が混み合う事はありません。植え付け場所の関係で樹形を縮めたい時は、春暖かなくなった頃に樹形を見ながら、枝を切り詰めます。萌芽力が強いので切り詰めた付近から新しい芽が萌芽してきます。